

## 観点4. 学生

### 4-1. アドミッションポリシー（受け入れ方針・入学者選抜方針）が明確にされ、適切に運用されていること。

#### (1) 4-1の事実の説明（現状）

#### 4-1-① アドミッションポリシーが明確にされているか。

「建学の精神」に基づいて、各学部の教育理念に沿ったアドミッションポリシーを以下のように定めている。これらのアドミッションポリシーは、ホームページで公表するとともに、『大学案内』・『募集要項』に掲載して周知を図っている。

#### ア. 経営学部現代ビジネス学科のアドミッションポリシー

- ・医療現場で各種情報を記録・管理・検索するための専門技術を磨き、実社会で貢献できる人。
- ・ビジネス社会で情報系につよい能力を磨き、実社会で貢献できる人。
- ・ものづくり大国「日本」の将来あるべき姿を探求していく意欲をもち、実社会で貢献できる人。

#### イ. 人間学部のアドミッションポリシー

##### (a) 心理学科

- ・「目に見える行動」と「目に見えない心の動き」等、人間を探究し理解することに興味をもち、学修内容や資格を通して実社会で貢献できる人。

##### (b) 人間文化学科

- ・社会と人間の「共生」を考え、「健康」「観光」「国際」の各分野で貢献できる人。

##### (c) 子ども発達学科

- ・乳幼児期や小学校児童の発達を理解することに興味をもち、専門的知識を身に付け現代社会で貢献できる人。

##### (d) 健康スポーツ学科

- ・健康、スポーツ、心理学の関係性を理解し、社会で必要とされている専門的なスキルを身に付け、社会のさまざまな分野で貢献できる人。

##### (e) 人間心理応用学科

- ・心理学と人間学に興味をもち、現代社会の「こころ」の問題を解決し、社会のあらゆる分野で貢献できる人。

#### ウ. 看護学部看護学科のアドミッションポリシー

- ・高度化・多様化する看護や保健に関する専門知識・技術・態度を学び、実践力と信頼性とを養い、現代の社会に貢献できる人。

#### 4-1-② アドミッションポリシーに沿って、入学者選抜等が適切に運用されているか。

以上のアドミッションポリシーに沿った多様な人材を募集するべく、複数の機会を設けて入学試験を実施している。入試日程をはじめ入学者選抜実施方法等実施の詳細は、入試委員会で審議・検討し、大学運営会議・各学部別の教授会の承認を経て実施している。

本学では入学希望者に対して公正な受験の機会を提供するために、『募集要項』を全国から入手することができる体制をとっており、ホームページの専用フォームによる申し込みにより『募集要項』を請求者に発送している。また、全国の高等学校へ送付を行い、入学試験方法等広く告知をしている。

入学者選抜方法は、推薦型入試（指定校推薦入試、AE入試、AO入試、公募推薦入試、外国人留学生入試、編入学入試）と、学力を主たる評価基準として選考するための学力型入試（一般入試、大学入試センター試験利用入試）がある。前者は主として高等学校における日常の学習と活動とを重視したものであり、その特性から10～1月に、後者は受験生の学力の充実を待って1～3月に試験を実施している。それぞれの方針と内容は次のとおりである。

#### ①協力指定校推薦入試

協力指定校推薦入試は、高等学校における学業成績や諸活動の実績が優れていると認められる者を選抜する。あらかじめ指定した高等学校（中等教育学校）から一定の条件のもと各学校長によって推薦された者について、書類審査と面接による選抜を行う。平成22(2010)年度入試からは、高等学校の各種行事を考慮して前期と後期の2回にわたって協力指定校入試を実施している。（対象学部は経営学部、人間学部、看護学部）

#### ②AE入試

AE入試のAは「アグリーメント」、Eは「エントランス」を表わす。すなわち志願者・保護者・出身（在籍）学校、大学の4者がそれぞれの立場から、本学の教育方針や学生指導などの教育理念を相互に十分に理解したうえで、入学に同意していただく、という趣旨であり、ミスマッチによる不本意入学にならないよう配慮した入試である。アドミッションポリシーは「アグリーメントポリシー」といい、下記のとおりである。

1. 本学の教育方針に共感できる人
2. 本学で学ぶ目的が明確な人
3. 本学の4年間で自分を高めたい人
4. 本学で学ぶために残された高校生活を有意義に過ごせる人
5. 将来の明確な目標を持っており、それを具体化するために努力のできる人

（対象学部は経営学部、人間学部）

#### ③AO入試（資格優遇型、社会人型、自己推薦型、セミナー受講型、高校生活重視型）

AO入試は、本学の建学精神である「教育は徳なり」を教員が説明したのち、本学への入学を強く希望する者を選考する入試制度である。エントリーシート、本学のオープンキャンパスでの模擬授業受講レポート、5項目の設問、取得した資格などを通して、生徒一人ひとりの持つ多彩な能力、個性、意欲等を多面的に評価し選考する入試である。多彩な個性を持った学生を受け入れ、大学4年間で実践的に学び、将来社会で活躍できる資質を養うことを目指している。

（対象学部は経営学部、人間学部）

#### ④公募推薦入試

公募推薦入試は、高等学校長に推薦された者を対象とし、学科試験と調査書と面接によって総合判定する入試である。高等学校における学習成果を重視し、評定平均値の10倍型、20倍型と方式によって区別している。（対象学部は経営学部、人間学部、看護学部）

⑤一般入試

一般入試は、各学部学科の教育に必要な基礎学力を備えている者を選抜する。学力面において基礎力のある優秀な学生を確保するための選抜方式である。しかし、C 日程では推薦型入試と同様に評定平均値を 10 倍し、かつ面接を課すなど、本学は一貫して高校現場での平生の学習態度を重視している。(対象学部は経営学部、人間学部、看護学部)

⑥大学入試センター試験利用入試

大学入試センター試験利用入試は、全国から広く受験しやすくするために実施している。一般入試と同様に各学部学科の教育に必要な基礎学力を備えている者を選抜するが、本学が指定する教科・科目を受験した者が対象である。

(対象学部は経営学部、人間学部、看護学部)

⑦外国人留学生入試

外国人留学生入試は、指定校推薦型と一般入試型を設け、本学における対象学部学科の教育方針に合致する外国人を選抜する。国際的に開かれた大学として多様な学生の受け入れを目的にしている。日本留学試験の「日本語」科目の受験または日本語能力試験を受験した方というのが受験資格であるが、作文と面接で日本語能力と学習意欲を確認している。

(対象学部は経営学部、人間学部)

⑧編入学入試

編入学入試は、指定校推薦型と一般入試型を設け、3 年次に編入する入試で本学の各学部学科の教育目的に合致する者を選抜する。例えば大学・短期大学に 2 年以上在学し 62 単位以上を修得している者、修業年限が 2 年以上で総授業時間が 1700 時間以上の専修学校専門課程を修了している者等、一定の条件のもとで実施している。

(対象学部は経営学部、人間学部)

**4-1-③ 教育にふさわしい環境の確保のため、入学定員、収容定員、及び在学学生数と授業を行なう学生数が適切に管理されているか。**

最近 5 年間の本学入学者・入学定員充足率の推移を表にまとめると、表 4-1-1 のようになる。看護学部では入学者が常に定員を満たしているものの、充足率が 100%を大幅に上回る年度があった。人間学部では、入学者が減少し定員を充足していない場合が増えていたが、平成 24(2012)年度に学部の改組をおこない、平成 25(2013)年度には健康スポーツ学科・子ども発達学科で前年を上回る入学生数となり改善の兆しがみられた。経営学部においては、平成 22(2010)年度・平成 23(2011)年度に定員を充足したが、平成 24(2012)年度以降、定員充足率が減少している。

**表 4-1-1 入学定員・入学者・入学定員充足率 (平成 25 年 5 月現在)**

平成 25(2013)年度

学部	看護	人間			経営
学科	看護	人間心理応用	健康スポーツ	子ども発達	現代ビジネス
定員	80	50	140	50	40
入学者	95	27	135	23	26
定員充足率	118.8%	54.0%	96.4%	46.0%	65.0%

太成学院大学

平成 24(2012)年度

学部	看護	人間			経営
学科	看護	人間心理応用	健康スポーツ	子ども発達	現代ビジネス
定員	80	50	140	50	40
入学者	95	37	127	17	32
定員充足率	118.8%	74.0%	90.7%	34.0%	80.0%

平成 23(2011)年度

学部	看護	人間		経営
学科	看護	心理	人間文化	現代ビジネス
定員	80	100	140	40
入学者	107	71	139	43
定員充足率	133.8%	71.0%	99.3%	107.5%

平成 22(2010)年度

学部	看護	人間		経営
学科	看護	心理	人間文化	現代ビジネス
定員	80	100	140	40
入学者	113	43	102	43
定員充足率	141.3%	43.0%	72.9%	107.5%

平成 21(2009)年度

学部	看護	人間		経営
学科	看護	心理	人間文化	現代ビジネス
定員	80	100	140	40
入学者	91	66	116	35
定員充足率	113.8%	66.0%	82.9%	87.5%

また、最近5年間の本学の収容定員、在籍者数、収容定員充足率の推移を表にまとめると、表4-1-2のようになる。

表 4—1—2 収容定員・在籍者数・収容定員充足率

学部・学科		区分	平成 25 (2013) 年度	平成 24 (2012) 年度	平成 23 (2011) 年度	平成 22 (2010) 年度	平成 21 (2009) 年度
経営学部	現代ビジネス	収容定員	168	168	248	266	284
		在籍者数	117	134	160	171	188
		収容定員充足率	69.6%	79.7%	64.5%	64.3%	66.2%
	経営経済	収容定員	—	—	—	62	124
		在籍者数	1	3	5	31	68

		収容定員充足率	—	—	—	50.0%	54.8%
人間学部	心理	収容定員	204	304	404	404	404
		在籍者数	100	149	221	248	294
		収容定員充足率	49.0%	49.0%	54.7%	61.4%	72.8%
	人間心理応用	収容定員	100	50	—	—	—
		在籍者数	59	37	—	—	—
		収容定員充足率	59.0%	74.0%	—	—	—
	人間文化	収容定員	284	424	564	564	564
		在籍者数	201	293	442	495	601
		収容定員充足率	70.8%	69.1%	78.4%	87.8%	106.6%
	子ども発達	収容定員	100	50	—	—	—
		在籍者数	40	17	—	—	—
		収容定員充足率	40.0%	34.0%	—	—	—
健康スポーツ	収容定員	280	140	—	—	—	
	在籍者数	244	127	—	—	—	
	収容定員充足率	87.1%	90.7%	—	—	—	
看護学部	看護	収容定員	320	320	320	320	240
		在籍者数	366	395	400	376	275
		収容定員充足率	114.4%	123.4%	125.0%	117.5%	114.6%
合計	収容定員	1456	1456	1536	1616	1616	
	在籍者数	1128	1155	1321	1321	1426	
	収容定員充足率	77.5%	79.3%	86.0%	81.7%	88.2%	

※経営学部経営経済学科は平成 20(2008)年度より募集停止

※人間学部は心理学科・人間文化学科の 2 学科から平成 24(2012)年度人間心理応用学科・子ども発達学科・健康スポーツ学科の 3 学科へ改組

学部・学科別では、経営学部においては平成 24(2012)年度、収容定員充足率が 79.8% となり改善傾向がみられたが、平成 25(2013)年度は再び減少に転じている。人間学部は平成 20(2008)年度以降、収容定員充足率が低下していたが、平成 24(2012)年度より人間学部の 2 学科（心理学科、人間文化学科）が 3 学科（人間心理応用学科、子ども発達学科、健康スポーツ学科）に改組されたことで、平成 25(2013)年度は僅かであるが増加傾向となった。看護学部は平成 19(2007)年度開設以降、定員を満たしている。今後人間学部・経営学部は、入学生の定員充足に取り組み、収容定員充足率の上昇につなげることが必要である。

## (2) 4-1 の自己評価

本学のアドミッションポリシーは学部・学科ごとに定められており、それに沿った入学

者選抜が入試委員会を中心に、大学運営会議・各学部別教授会の承認等所定の手続きを経て、適切に運用されている。

その中で経営学部、人間学部の志願者、入学者を増やすことは急務である。ホームページや進学情報誌などで本学に関心を持ち、『大学案内』や『募集要項』の資料希望者数は伸びたが、オープンキャンパス参加者の増加と出願者の増加が課題である。そこで、本学のホームページ・WEB等を使用したタイムリーな情報発信を強化し、加えて平成25(2013)年度からはニュースリリースを配信することで、本学の教育内容・特色・成果を広く発信し、本学への来学につなげることができた点は評価できる。また高大連携の一環として、特に併設高等学校の太成学院大学高等学校との連携を密にし、本学教員による模擬授業を併設校や近隣の高等学校にて体験する機会、大学のキャンパスにて体験する機会を計画・実施し、より多くの生徒が本学での勉学や学生生活をイメージし、志願者が増えるように取り組んできた。平成24(2012)年度からは併設高等学校在学中に本学教員の授業を継続的に受講し、入学後単位として認定する制度を取り入れ、併設校からの志願者増につなげている。ただし、看護学部を除いては依然として収容定員を下回っていることから、今後もさらなる改善に向けた取り組みが必要である。

### **(3) 4-1の改善・向上方策(将来計画)**

入学者選抜については、志願者の動向や入学後の学修状況を分析したうえで、入学選抜方法について検討・改善を重ね、アドミッションポリシーに沿った選抜方法を継続する。また志願者数および入学者数の増加につなげることが急務であり、そのために高校生が各学部・特に新しい学科の特色を理解する機会を増やすため、併設高等学校との連携の強化のほか、近隣高等学校に対し、学校単位での大学見学および模擬授業の実施の機会を増やすことに取り組む。

また、『大学案内』を手にした志願者が本学への関心をより持てるよう、ホームページでの情報更新とスマートフォン用のホームページ作成や大学専用アプリの運用、年5回発行している学内報の送付等で本学の取り組みを発信することを強化する。

募集においては、『募集要項』に本学独自のAE入試や、多彩な能力・個性・意欲等を多面的に評価し選考するAO入試、協力指定校推薦入試等、本学の入試制度を一冊にまとめ案内することで、自分にあった入試制度を選べるよう変更する。また、オープンキャンパスプログラムを高校生の興味関心をひく内容に常に見直すことで、本学の魅力を理解していただくプログラムに改善し、定員充足率の増加につなげる。

## **4-2. 学生への学習支援の体制が整備され、適切に運営されていること。**

### **(1) 4-2の事実の説明(現状)**

#### **4-2-① 学生への学習支援体制が整備され、適切に運営されているか。**

学生への学習支援体制は組織的に次のように行っている。

- ア. 修学支援(授業を主)・・・教務課、学生サービス課、図書館、教員
- イ. 情報教育関連支援・・・情報センター
- ウ. 海外研修・・・教務課、学生サービス課、海外研修委員会

エ. 授業外での資格取得支援／就職活動支援・・・学生サービス課

**ア. 修学支援・・・教務課、学生サービス課、図書館、教員**

全学生に対して、『授業計画』『履修の手引き』『学生必携』を新学期オリエンテーション期間に配布し、履修登録の指導を行っている。特に新入生に対しては入学宣誓式の前に学内オリエンテーションを施行した後、人間学部・経営学部は1泊2日、看護学部は2泊3日の導入教育宿泊研修を実施している。

導入教育宿泊研修の主な目的は、大学生活への不安の軽減や学生間の人間関係の円滑化を図り、主体的な大学生活への導入を支援することである。加えて学部・学科の専門性を考慮しつつ社会人基礎力を身に付ける上で大切な要素（規律性、協調性、主体性など）の行動化を意図し、卒業後も視野に入れたプログラムが組まれている。

アドバイザー教員は全学年にクラス担任として配置している。週1回（45分）のアセンブリ・アワーを必須単位とし、学内行事、進級、個人相談などあらゆることの相談窓口及び生活指導の窓口としている。特に、欠席日数が規定を超えた時には学生サービス課と連携し個人指導を行っている。又、経営学部と人間学部では2年次から3年次への進級条件として50単位以上の修得を条件として設定、看護学部では学年ごとに進級要件を設定し、学生の学習への問題意識を喚起すると共に、学業修得上の問題点の早期把握を行っている。

なお、試験機会を与えて学習意欲を喚起する施策として追試験・再試験をおこなっている。さらに、補充授業としてのリメディアルクラスを必要に応じて行っている。

保護者との関係については、学期ごとに成績表を送付し、毎年6月に教育懇談会を実施し、希望する保護者とアドバイザー教員との面談の機会を設定している。

**イ. 情報教育関連支援・・・情報センター**

情報機器の整備・管理、情報関連授業を含む諸授業の講義の支援、情報関連自習スペースの拡充・支援、大学ホームページの運営、MY TGU.net の運営など、情報機器環境の充実化を推進している。また、情報機器を使用した授業において学生が助手を務める、「SA（Student Assistant）教育制度」の運営を担当している。学生は図書館や情報センターに付設しているパソコン・コーナーやパソコン実習室を利用して、情報検索やレポートの作成をすることが出来る。

TGU.net は掲示板による学生への日々の連絡を補完するものとして配信される。また TGU.net は、登録授業ごとに担当教員が各学生に個別指導をすることや、学生サービス課から個人ごとに連絡することが可能であり、欠席日数が規定を超えそうな場合の生活指導にも使われている。更に、平成22(2010)年4月より iPod を利用した教育環境の構築により、いつでもどこでも復習が可能な教育環境を実現すべく、インフラ環境の整備を終え、平成23(2011)6月1日より iPod を全学生に配布している。手元に iPod があることで手軽にインターネットを使え、パソコン実習室以外の各教室の授業でもインターネットが活用できる環境となった。

平成25年8月より、学生の授業理解度を深めることを目的として動画を活用するために、教材作成用の授業収録装置を導入した。これにより、繰り返し授業内容を視聴して復習することができるとともに、既成のDVDにおける過不足を補い学習効果を上げることをねらいとしている。現在まだ試験的取り組みの段階であるが今後、効果的活用に向けて検

討し、学生が自由に閲覧できることによって学習効果に向上させることを目指す。

#### **ウ. 海外研修・・・教務課、学生サービス課、海外研修委員会**

教務課・学生サービス課、海外研修委員会では夏休み期間に語学研修、春休み期間に異文化研修として海外体験機会を企画・提供し、いずれも単位認定して学生の動機づけを強化している。平成25年度は、9月に韓国、2月にイタリアへの研修を企画・実施した。

平成24年度から海外研修費用の軽減を図るべく積立制度を導入し、希望者に提供している。これにより計画性を持たせながら海外研修に臨む姿勢を培っている。

#### **エ. 授業外での資格取得支援／就職活動支援・・・学生サービス課**

学業の成果を就職に結びつけるために学生と教職員間の人間関係を形成することに努め、円滑な相談が出来るようにしている。就職活動は学生生活体験を豊かにし、コミュニケーション能力を高めることで成果に結びつくと考え、大学祭行事などの大学行事を運営している。支援策としては、学外実習であるインターンシップ、コーオプ実習、学内実習であるSA (Student Assistant) 教育制度も効果を発揮している。また、資格取得支援特別講座、ダブルスクールプログラム、資格取得サポート体制によって資格取得意欲を高める機会の提供などを行っている。

看護学部では平成22(2010)年度に初めての卒業生を輩出して以来、今年度で4回目の卒業生を送り出し、国家試験合格者全員が希望の病院に就職することができている。この背景には実習病院との連携により就職説明会を開催することで、具体的に看護体制や待遇などの情報収集が図れたこと、さらにアドバイザー教員が中心となり学生が自分の進むべき未来をイメージしつつ就職活動ができるよう支援したことがあったと考えられる。

#### **4-2-② 通信教育を実施している場合**

該当せず。

#### **4-2-③ 学生への学習支援に対する学生の意見等をくみ上げるシステムが適切に整備されているか。**

学生への学習支援に対する学生の意見等を汲み上げるシステムは次に記すとおりである。

- ア. 授業アンケート
- イ. 学生満足度アンケート
- ウ. 大学運営会議
- エ. 教学会議・教授会
- オ. アドバイザ教員制度
- カ. 学長アンケート
- キ. 教職課程取得説明会と教育実習説明会
- ク. 教科分科会

#### **ア. 授業アンケート**

全ての講義を対象に、年2回学期末に授業アンケートを実施し、全学平均や学部平均と比較することで、担当教員が自己の立ち位置を認識し、効果的な講義内容に改善する方策



を検討、実施し、確認する努力を支援している。

#### **イ. 学生満足度アンケート**

平成 23(2011)年度より、学内の学生サービスに関するアンケートの実施を開始した。総務課を始めとして大学の各部署の評価を学生が無記名で記入し、その結果は随時大学ホームページに掲載、学生対応等の改善を図っている。

#### **ウ. 大学運営会議**

学長、学務長、学部長、学部長補佐、教務主事、学生主事、学生副主事、実習担当主担、図書館長、情報センター長、事務長、総務課長、教務課長、学生サービス課長、入試課長、情報センター課長で構成する大学運営会議を隔週月 2 回開催し、全学の情報共有と迅速な意思決定と衆知の結集を目指して努力している。

#### **エ. 教授会**

学部毎に隔週で月 2 回開催し、学部長が議長となり、課題に対して現実に即した意思決定を行っている。フェイス・ツー・フェイスの情報交換が全学で対処する課題に対しての迅速で効果的な対応を支えている。

#### **オ. アドバイザ制度**

クラス担任としてアドバイザ教員を任命し、週 1 回のアセンブリ・アワーを運営し、学生生活が円滑かつ有意義に遂行されるよう情報の提供と、個人別の相談に対応している。毎週行われるアセンブリ・アワーにおける意見交換やアドバイザ教員との個別相談が課題発生時の早期対処に大きな機能をはたしている。

#### **カ. 学長アンケート**

アドバイザ教員に話せない事柄については、「学長アンケート」に直接意見を申し立てることが出来る。寄せられた情報は「学長」が自ら指示し対処する。

#### **キ. 教職課程説明会と教育実習説明会**

全学年の教職希望者を対象に、教職課程検討委員会と教務課で各学期の新学期オリエンテーション時に教職課程オリエンテーションを開催し、説明後個人毎の相談に応じ、必要な助言をしている。また、教育実習や介護体験に関わる説明会等も必要に応じて実施している。

以上は観点 2、3 でも詳しく触れている。

#### **ク. 教科分科会**

学部ごとに関係する数名単位のグループをつくり、教科分野に関する事項や授業の進め方の工夫など、現場の問題意識と改善策の共有を行っている。その議事録は統一書式を定めており、学部長や学長まで回覧し、それぞれのレベルで問題点を共有するように努めている。

その他、学生は相談や解決の方法として、「アドバイザ教員」の他に「第 2 保健室（学生なんでも相談室）」「学生主事」「学生サービス課」などの窓口を利用することが出来ることを『学生必携』に記載し、周知している。

### **2) 4-2の自己評価**

学習支援に向けた取組みとしては、入学者の学習意欲のばらつきが大きいという傾向を踏まえ、意欲の高い者への対応と意欲の低い者への対応を同一の授業で行う講義内容の工

夫が最大の取組み課題である。本学では100人規模を超える講義は極めて少なく、少人数制の講義を中心に実施しており、学生一人一人に細やかに対応することが目的である。現在、講義およびクラスにおいては、iPodを活用して個人ごとの問題意識を反映した授業やリメディアルクラスの開講など、理解の促進と興味の啓発を図る工夫などを行っている。また新たに取り入れた授業収録装置の設置、およびICT環境の充実などにより、今後更に効果的な学習支援につなげることができると考える。

課題であった人間学部・経営学部の就職率は、就職セミナーや面接実践セミナーなど従来からの取組みに加え、「就活研究会」の設置および就職専門相談員の配置などのよりきめ細かい就職サポートが展開された結果、就職内定率は昨年同時期を大きく上回る83.1%であった（平成26(2014)年1月28日現在）。

また、第2保健室（学生なんでも相談室）では、相談員として各学部より計4名の教員を配置して対応するとともに、平成24年10月から学生サービス課に資格を持つ相談員1名を配置し、アドバイザー教員と連携しながら効果的に対応できるようにしている。相談員による面談は、まず看護学部1年生の学生を中心に施行している。これは看護学部での学習・臨地実習は、今までの体験以上にストレスが多く悩みや不安を抱くことが多く、学生が抱える問題への支援が効果的に図れるようにすることを目的としている。その他、全学部全学科の学生を対象に学生相談も受け付けており、平成25(2013)年度12月現在の面談件数は953件（看護学部1年生を除く）、メールや電話による学生相談も含めると1693件に及び、学生のニーズの高さが伺える。

### **（3）4-2の改善・向上方策（将来計画）**

「教育は徳なり」を建学の精神とする本学は、大学の所在地として南河内地方の文化形成の核としての理念を抱いて教育事業を推進している。教育環境としては全人的な陶冶を目的とした情報技術の整備を重視し、先進的なインフラ整備を推進している。平成25(2014)年4月にはICT学修環境の更なる充実が図られ、学びの交流空間としてActive Learning Commonsが学内8か所に整備される。建学の精神、教育理念の具現化の一環として、「社会人基礎力」の育成を可視化したアクティブラーニングに全学的に取り組む上で、教職員一丸となって有効活用を進めていきたい。また、運動施設の拡充をし、学生がサークル活動や体力、スポーツなど多様な活動に触れる機会を潤沢にする計画も継続していく。

### **4-3. 学生サービス体制が整備され、適切に運営されていること。**

#### **（1）4-3の事実の説明（現状）**

#### **4-3-① 学生サービス、厚生補導のための組織が設置され、適切に機能しているか。**

本学では、学生サービス、厚生補導のための組織として「学生サービス課」を設置している。また、学生と教員の人間的な交流を深めることを目的とした「アドバイザー制度」を設けている。

#### **ア. 学生サービス課**

平成21(2009)年度4月より、それまでの学生課を学生生活全般の支援を行う部署として、

学生サービス課に名称変更し対応している。「学生サービス課」は、学生サービス課員、保健室職員で構成している。

「学生サービス課」は①『学生必携』に関すること、②新入生導入教育宿泊研修に関するサポート、③学生の賞罰に関すること、④学生生活の相談、指導、助言、実態調査及び第2保健室（学生なんでも相談室）の運営等に関すること、⑤学生証明及び在籍に関すること、⑥学生割引証明書、通学証明書、在学証明書、健康診断証明書に関すること、⑦学生への掲示、印刷物配布等に関すること、⑧各種奨学金に関すること、⑨学生寮、下宿、アルバイトの紹介等に関すること、⑩学生の福利厚生に関すること、⑪学生の遺失物、拾得物の保管、返戻に関すること、⑫学生の資格支援に関すること、⑬学生の就職支援に関すること、⑭学生の健康管理並びに保健室及び第2保健室（学生なんでも相談室）の管理運営に関すること、⑮学友会の支援に関すること等の業務を担当している。

#### イ. アドバイザ制度

4-2-③のオ参照。

#### ウ. 実行した主な学生サービス例

##### (a) シャトルバスの運行

開学当初より、無料シャトルバスの運行を行っている。現在では、喜志線は運行本数を平日で約40往復と大幅な改善を行った。また、平成21(2009)年度4月より、南海バス「平尾バス停」からのシャトルバスを地下鉄御堂筋線「なかもず駅」及び南海高野線「中百舌鳥駅」からに変更し、学生への利便性を図った。

##### (b) 携帯電話充電器の設置

携帯電話の充電器を平成19(2007)年度より、玄関ホールに設置した。

##### (c) 多目的グラウンドの照明設備

多目的グラウンドに8基(32台)、全体平均照度239ルクスの投光器を平成19(2007)年度1月に設置し、課外活動団体の夜間練習の時間が確保出来た。

##### (d) 喜三郎池ロード

コミュニティプラザを起点に、多目的グラウンドから野外ステージ周辺、喜三郎池をめぐって体育館に至る自然に恵まれた約1kmのコースを平成19年(2007)年度3月に設置し体育実技関係の授業、課外活動団体の練習場所として利用している。

##### (e) コンビニエンスストアの誘致及び設置

東館コミュニティホール北側にコンビニエンスストア「ヤマザキYショップ」を平成20(2008)年度3月に誘致し開店した。

##### (f) 喫煙ルームの設置

平成25(2013)年度に、東館と体育館の間に喫煙ルーム(Smoking room)を設置した。喫煙はこの部屋のみ限定すること、歩きたばこや本学バス停周辺での喫煙を禁止することを周知し、運用することとした。このことにより、非喫煙者の受動喫煙防止、火災防止、本学キャンパス内の美化を目的とし、学生が勉学する上での環境整備のさらなる向上を目指している。

#### 4-3-② 学生に対する経済的な支援が適切になされているか。

本学では、学生に対する経済的支援として「奨学金制度」、留年学生のための「修学特

別学費減免制度」、「学生寮の設置」、「アパート・マンションの紹介」を学生サービス課・総務課で対応している。

#### **ア. 奨学金**

学内給付型奨学金として、各学部の一般入試の成績優秀者に対して、「太成学院大学奨学金制度」がある。すでに、資格を取得している入学者に対して、「資格奨学金制度」を全入試において実施している。

また、学外奨学金については「日本学生支援機構奨学金」が最も多くの学生が利用している奨学金である。その他の奨学金としては、地方公共団体、民間団体の奨学金（看護学部においては公立・私立の病院の奨学金を含む）を扱い、経済的困窮により勉学を継続することが困難な学生の救済等に親身に対応している。

学費の支払いについては、半期一括払いを基本としているが、経済的に一括での学費の支払いが困難な場合は、5回に分けて納入することのできる分納手続きを行っている。

#### **イ. 留年学生のための学費減免制度**

平成 25(2013)年度より、単位不足等によって留年し、前学年を再度履修することとなった学生に対して、「修学特別学費減免制度」を適用している。看護学部で約 72%、人間・経営学部で約 67%の学費の減免となり、在学期間中通算して 1 年以下、半期単位での利用が可能となっている。このことにより、未修得の少数の単位取得のために支払う学費の負担を軽減し、ひいては経済的に困難な状況の学生の退学の防止にも寄与すると考える。平成 25(2013)年度にこの制度を利用した学生は 39 名（経営学部 4 名、人間学部 20 名、看護学部 15 名）であった。

#### **ウ. 学生寮の設置**

遠方より入学する学生に対する経済的支援として、学生寮（女子寮 1 棟）全 43 室を設置している。女子寮（スカイフィル喜志）は、喜志駅より徒歩 8 分の場所に位置する。寮費に関しては、保護者の負担を配慮し、安価な寮費に設定している。

また、学生サービス課の職員を寮監として配置し、寮生の生活状況を常に把握し寮生からの相談に対応できる体制を整備している。

#### **エ. アパート・マンションの紹介**

遠方から入学する学生で学生寮ではなく、民間のアパート・マンションに入居を希望する学生に対して、学生サービス課で賃貸情報の資料などを用意し、紹介を行っている。

### **4-3-③ 学生の課外活動への支援が適切になされているか。**

平成 24(2012)年度の学友会に登録の課外活動団体は、部が 14 団体、同好会・サークルが 2 団体、準備会が 6 団体である。部及び同好会・サークルには学友会より「部活動援助費」が配分されている。また、専任教員が部、同好会・サークル、準備会の顧問として支援を行っている。特に大学指定強化クラブの硬式野球部・女子ソフトボール部には、部活動設立当時より、リーグ戦における費用の援助を行い、公式戦、練習試合、練習等の移動には、大学専用バスを配車しサポートしている。

大学祭の実施については、早期の段階でクラスより大学祭実行委員会のメンバーを選出し、学友会と協力し業務内容に応じて部署を設置し体制を整え、その役割に応じて大学当局をはじめ、関連業者や地元公共機関等との交渉や折衝を行い、本学の伝統を守りつつ、

新たな企画を加え来場された方々に楽しんでいただいている。

#### 4-3-④ 学生に対する健康相談、心的支援、生活相談等が適切に行われているか。

キャンパスの人権に関する相談窓口を設置し、また学生が健康で安心できる学生生活を送れるよう助言・援助することを目的に、第2保健室（学生なんでも相談室）、アドバイザ教員、アセンブリ・アワー、保健室などの支援体制を整備している。

#### ア. 保健室

学生の健康を保持増進させていくことを目的として、養護教諭1人が常駐しており、学生の怪我や疾病に対する応急処置をはじめ、健康に関する資料の閲覧や個別の健康相談に応じ、学生による健康の自己管理に向けた支援をしている。また、全学生を対象として3月下旬に学外の健康管理機関による定期健康診断を実施している。未受診者に対しては、継続的なフォローを行っている。

なお、平成21(2009)年度以降の定期健康診断の実績は以下の通りである。

表4-3-1 健康診断の受診者数及び受診率

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
受診者数	1,267人	1146人	1136人	1086人	1033人
受診率	89%	86%	90%	94%	87%

#### イ. 第2保健室（学生なんでも相談室）

学生が心的な悩みを相談できる機関として、本学では学生相談室を設置してきた。

平成24年度からは第2保健室（学生なんでも相談室）に改称し、本学の専任教員4人が交代で対応し、週4日開室（昼休み時間帯）することにより、学生の心理的・社会的適応を支援している。室内を明るく改装し、入口も目立つ看板等で学生に利用しやすくした。学内報にも記載し、第2保健室（学生なんでも相談室）の存在の周知を図った。

近年、さまざまな心的な悩みを抱えている学生が増えていることは、周知のとおりであるが、本学も例外でなく、年々、第2保健室（学生なんでも相談室）を訪れる学生は増える傾向である。

なお、平成21(2009)年度以降の第2保健室（学生なんでも相談室）への学生の来室者数は次の通りである。

表4-3-2 保健室及び第2保健室（学生なんでも相談室）の相談人数

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
保健室	188	219	172	982	1059
第2保健室 （学生なんでも 相談室）	24	26	14	90	62

※ 平成25年度は1月までの数字。平成24年度より、延べ人数で記載。

#### 4-3-⑤ 学生サービスに対する学生の意見等を汲み上げるシステムが適切に整備さ

### れているか。

学生が学生生活を送るにあたり、大学に対する意見や要望を抱くことは予想される。本学では、学生が本学に対する意見や要望を自由に投書できる「学長アンケート」を平成15(2003)年度4月に設置した。実際に寄せられた意見や要望書は、授業に関すること、施設・設備に関すること、学生食堂のメニューに関すること等、学生サービスに関することなど多岐にわたる。

これを集約して実行したのが、先に記したシャトルバスの運行形態の改善、携帯電話充電器の設置、多目的グラウンドの照明設備の設置、喜三郎池ロードの設置、コンビニエンスストアの「ヤマザキYショップ」設置、食堂の管理・営業を委託している業者の変更などである。

### (2) 4-3の自己評価

学生サービス課においては、学生生活を支援するための各種業務を円滑に遂行している。加えてアドバイザー教員制度、学生相談ブース、第2保健室(学生なんでも相談室)等、学生サービスの組織体制が整い、『学生必携』、掲示板、MY TGU.net そしてアSEMBLY・アワーを利用して、アドバイザー教員から直接情報を提供するなど、学生サービスへの組織的取り組みは、適切な対応を行っているといえる。

経済的支援については、日本学生支援機構の奨学金制度、地方公共団体、民間団体(病院を含む)の奨学金を扱うとともに、太成学院大学奨学金、資格奨学金等の制度を整備し適切に運用している。また、経済的な支援として評価できるのが学生寮に関することである。本学では、女子寮を有しており、学生のプライバシー保護のために家具付きの個室を安価な寮費で設定している。さらに、留年学生のための「修学特別学費減免制度」を設け、留年生の未修得の少数の単位取得のために支払う学費の負担を軽減し、ひいては経済的に困難な状況の学生の退学の防止にも寄与していくと考える。

健康、心的相談、学生生活に対する支援に関しては、保健室の運営、健康診断におけるフォローアップ等、適切な体制が構築されていると認識している。

特に、学生に身近な存在であるアドバイザー教員が日常的な相談相手となり、必要に応じて専門的な相談につなぐ体制は確立している。

学生サービスに対する学生の意見等の汲み上げについては、平成23(2011)年度より大学正面玄関付近に「学生満足度アンケート」を設置し、結果を大学ホームページに掲載、学生対応等の改善を図っているほか、学長自ら学生の声をくみ上げる「学長アンケート」を設置し、投函された要望については、必要な事項について教授会で審議し対応している。

### (3) 4-3の改善・向上方策(将来計画)

学生サービスに対する支援体制は有効に機能しているが、今後も教職員間の連絡を密にとり、学生サービス、学生指導などの研修会への参加(平成22(2010)年度には山形大学における研修会への参加を行った等)を通じて職員のスキルをアップさせ学生サービスに努めたい。

学生からの健康相談・心理的相談に関することであるが、第2保健室(学生なんでも相談室)への来室者数は増えており、次年度は1名の教員を増やし計5名の教員での対応を

検討している。

学生サービスに対する学生の意見・要望・不満等を汲み上げる組織的な体制を大学運営会議、教授会において継続的に審議する。加えて学生満足度調査の実施の徹底を、秋学期までの運営会議、教授会に諮り、審議し実施した。また、アンケート結果（中間結果）と、結果をふまえての各課（総務課、教務課、学生サービス課、情報センター）からのコメント（アンケート結果の分析と学生に対するサービス向上の対策等）を集め、大学ホームページに掲載するよう、対応している。

また、充実した学生生活を阻害する要因となる薬物使用（大麻・覚せい剤）や悪徳商法に巻き込まれないための対策について、平成 25(2012)年度より新入生オリエンテーションにおいて外部講師を招いての「薬物乱用防止講習」を始めたが、学生サービス課を中心に継続的に情報発信をしていきたい。加えて現実的に健康被害が考えられる、喫煙による非喫煙者の受動喫煙の防止のために喫煙ルームを設置し運用を始めたが、さらに歩きたばこの禁止を喫煙学生に徹底指導していくことにより、非喫煙者の受動喫煙防止、火災防止、本学キャンパス内の美化につとめ、本学キャンパスにおいて勉学する上でのより良い環境の整備を進めていきたい。

#### 4-4. 就職・進学支援等の体制が整備され、適切に運営されていること。

##### (1) 4-4の事実の説明（現状）

##### 4-4-① 就職・進学に対する相談・助言体制が整備され、適切に運営されているか。

本学では大阪短期大学時代からの就職指導のノウハウを継承している。就職支援は学生サービス課（資格・就職支援センター）が窓口となっている。学生サービス課内に置かれた窓口では、学生が必要に応じて職員に相談できる体制となっている。学生全体への指導は週1回必修で行われているアセンブリ・アワーの中で実施しており、担当職員だけではなく、アドバイザー教員も参加して全学をあげて就職指導に取り組んでいる点が特徴である。3年生秋の就職活動開始に向けて、1年生の早い時期から指導の機会を設け、学生の就職に対する動機付けを行っている。学生サービス課（資格・就職支援センター）が主催する進路セミナープログラムはアセンブリ・アワーを利用して次のような年間スケジュールで実施している。（表 4-4-1）

表 4-4-1 平成 25(2013)年度進路セミナープログラム

学期	学年	実施日	テーマ
春学期	1年次	4月26日	プレエントリー期間の今、何をなすべきか。
	2年次	5月10日	進路ガイダンス：自己分析
		5月24日	JOB探し、WORK探し

	3年次	4月19日	学内就職活動支援プログラム（1） 就職活動前の準備：就職活動の6つのステップ	
		5月10日	学内就職活動支援プログラム（2） 職務適正テスト	
		6月7日	学内就職活動支援プログラム（3） 就職情報サイトへの登録	
		6月14日	学内就職活動支援プログラム（4） 進路登録票の作成	
		7月5日	学内就職活動支援プログラム（5） 面接対策セミナー	
	4年次	4月12日	内定を獲得するために 持ち味を發揮しよう	
		4月26日	進路セミナー	
		7月12日	ハローワークによる個別相談会	
	秋学期	1年次	10月4日	2年次に向けて今、何をすべきか（業界と職種について）
		2年次	9月27日	就職活動準備（言葉づかいと立ち居振る舞い）
			11月15日	先輩と語る 就職活動と進路相談（3年次生との合同セミナー）
			12月13日	マナーは日々の積み重ね（言葉、態度、ネチケット他）「就職活動のしくみ」を知って勝負強くなる。
3年次		9月13日	学内就職活動支援プログラム（6） 集団討議・グループディスカッション対策	
		9月20日	学内就職活動支援プログラム（7） 書類対策Ⅰ（履歴書、エントリーシートの書き方）	
		9月27日	学内就職活動支援プログラム（8） 書類対策Ⅱ（履歴書、エントリーシートの書き方）	
		10月11日	学内就職活動支援プログラム（9） 試験対策（時事問題）	
		10月18日	学内就職活動支援プログラム（10） 経営学部教員による就職活動セミナー（Ⅰ）	
		10月25日	学内就職活動支援プログラム（11） 経営学部教員による就職活動セミナー（Ⅱ）	
		11月1日	学内就職活動支援プログラム（12） 試験対策（マナー：実践編）	



		11月15日	学内就職活動支援プログラム (13) 先輩と語る 就職活動と進路相談
		11月29日	学内就職活動支援プログラム (14) 試験対策 (国語、論作文)
		12月6日	学内就職活動支援プログラム (15) 就職活動セミナー (学内企業説明会)
	4年次	9月20日	あきらめるな。逃げるな。前へ進め。
		10月25日	4年次生対象学内企業説明会
		11月29日	内定10カ条

さらに今年度は、上記セミナーと併行して「就活研究会」を発足。採用試験における筆記試験に一人でも多くの合格者を輩出すべく基礎学力の補強を行なうため、年間を通じ毎週金曜日の5時限目に経営学部、人間学部の3年生有志学生を対象として講習プログラムを実施した。春学期は数学8回、国語3回。英語2回のプログラムに11人の学生が参加・受講した。秋学期はSPI問題集を教材として用いたが、これには英語が含まれていないため、数学、国語の2科目を開講科目として実施した。数学9回、国語6回のプログラムに9人の学生が参加・受講した。

また、進路セミナーや就活研究会とは別に本学の特徴として、就職活動を控える3年生を対象に毎年12月に学内企業説明会を実施している。これは近隣の企業約30社の採用担当者を本学に招き、ブース形式で企業説明、採用情報の提供、個別相談などを行うものである。これにより、内定に繋げる機会を与えると同時に学外での会社説明会に参加するための足がかりをつくり、学生の就職活動が活発に行われるよう導いている。

実際に就職活動を行う3・4年生に対する求人情報の提供は、印刷物と、学内のMY TGU.netによって公開し、680社以上の企業から来る求人进行分类した上、自由に閲覧できるように整備している。

その他、教職希望者説明会、看護学部病院説明会を開催している。また、数は少ないものの大学院進学希望者に対してはアセンブリ・アワーや3・4年生配当のゼミの中で担当教員が個別対応し、多方面で進路選択についてサポートしている。

#### 4-4-② キャリア教育のための支援体制が整備されているか。

##### ア. 授業との関連

通常の授業との関連では専門教育科目内のキャリア形成論領域で就職につながる科目を開講している(表4-4-2)。これにより、入学後早い時期から就職に対する意識付けを行っている。

表4-4-2 主なキャリア形成プログラムの授業

授業名	授業の概要
キャリア形成論 (1年次)	ビジネス・ワーカーがキャリア形成を行うにあたり必要な知識として経営知識、雇用システム、男女共生社会等を学ぶ。さらに、「キャリア」が持つ意味とビジネス・ワーカーを取り巻く環境の変化についても理解する。
キャリアフィットネス論 (1年次)	仕事に対しての夢と興味を抱くこと、また、コミュニケーションの基本を身につけることを目指す。
キャリアデザイン (3年次)	企業が求める能力を認識し、その概要と高め方を理解する。また、自分自身、どのような能力を社会で生かし、貢献していきたいか、ということを考える。
エンプロイアビリティ (2年次)	エンプロイアビリティが求められる社会的背景を理解するとともに、企業が求める能力を認識し、その概要と高め方も理解する。中でも、コミュニケーション能力については重点的にトレーニングを通して学ぶ。
ビジネスコミュニケーション (2年次)	ビジネス・ワークに必要な不可欠なコミュニケーションスキルの基本について、良好な人間関係を作り出すことを目的に言語と非言語の両面から学ぶ。
ビジネスプランニング論 (4年次)	新しい事業を始めるとき、ビジネスプランが必要となる。起業することを社会に向かって知らせ、関係者の同意を得て資金的な援助をしてもらうためのビジネスプランについて学ぶ。
表現入門 (1年次)	口語（音声）表現における敬語等待遇表現などの基本的な知識をも整理復習して、さらにその活用方法を学ぶ。就職活動に不可欠な履歴書・エントリーシートなども扱い、自己を正確に分析する能力をも身につける。
NPO/NGO と国際協力 (2年次)	営利を目的としない組織である NPO/NGO とボランティア活動は 20 世紀末から世界的に重要になっている。この授業では、NPO/NGO の現状を中心に、その活動と課題について学ぶ。
プレゼンテーション基礎・応用 (2年次)	基礎では、積極的な自己表現を行うにあたり、聞き手に情報を正確に伝える方法を具体的に修得する。応用では、書き方、読み方、話し方ならびに情報収集に重点を置いた演習を通してプレゼンテーション能力をさらに高める。

インターンシップ 「企業」 「高校（情報）」 「コーオプ」	いずれもキャンパスを離れて企業、高校等で実習を行い社会の現実に触れ、職業観を身に付けることを目的とする。
ボランティア実習	ボランティア活動を授業科目として単位認定する制度。社会との関わりの中で進んで福祉活動に従事し、様々な福祉問題に積極的に取り組もうとするボランティア精神を実体験の中から身に付けることを目的とする。

### イ. 学生サービス課（資格・就職支援センター）の役割

学生サービス課（資格・就職支援センター）では、学士に付加価値を持たせるという目的から資格支援プログラムとして、資格支援特別講座とダブルスクールプログラムを設けている。資格支援特別講座は資格専門業者と提携して外部講師を招いて平日5、6時間目や長期休暇を利用して開講している。また、ダブルスクールプログラムは国家資格を中心に設定され、ダブルスクールプログラム登録票を提出の上、学外での講座受講または独学により資格取得を目指している。この他にも公務員採用試験対策講座や教員採用試験対策講座を実施し、就職に対する支援体制を確立している。

また、本学は厚生労働大臣認定の若年者就職基礎能力支援事業（YESプログラム）の認定を受けていたが、平成21(2009)年度で打ち切りとなった。制度は引き続き継続されるため、経営学部、人間学部においては、平成22(2010)年度からは学長名にて学生サービス課（資格・就職支援センター）が窓口となり「就職基礎能力修得証明書（太成学院大学）」を発行している。当該証明書を申請するにあたっては、表4-4-3に掲げる科目を修得することに加え、所定の資格を1つ以上取得する必要がある。

表4-4-3 修得しなければならない科目

学部	就職基礎能力認定基準領域	本学の授業科目
経営学部	コミュニケーション能力	ビジネスコミュニケーション
	職業人意識	キャリア開発入門
	ビジネス文書の作成・読解	情報処理演習1
		情報処理演習2
		プレゼンテーション実習
		日本の文学
	計算・計数・数学的思考力	わかる数学
	社会人常識	情報の倫理
ビジネス・マナー	キャリアデザイン	
人間学部	コミュニケーション能力	ビジネスコミュニケーション
	職業人意識	キャリア形成論

ビジネス文書の作成・読解	ソフトウェアリテラシー基礎
	ソフトウェアリテラシー応用
	プレゼンテーション基礎
計算・計数・数学的思考力	わかる数学
社会人常識	マスコミュニケーション史
ビジネス・マナー	エンプロイアビリティ

## ウ. 学外とのかかわり

学生を社会に送り出すにあたり、在学中に社会での実体験を得ることは重要である。本学では専門教育科目内のキャリア形成論領域において、インターンシップ「企業」、インターンシップ「学校（情報）」、インターンシップ「コーオプ実習」、ボランティア実習、を設けており、2週間に及ぶ学外実習を夏休みなどの長期休暇中に取り組むことができる。

平成 25(2013)年度は、ボランティア実習に 27 人の学生が参加し、19 人が単位認定を受けた。なお、インターンシップ「企業」、インターンシップ「学校（情報）」、インターンシップ「コーオプ」については参加者がなかった。

### (2) 4-4の自己評価

本学の資格取得、就職支援の特徴は単位認定と結びついていること、および教員も含めた全学的な指導体制を目指していることである。進路セミナーは必修科目であるアSEMBリ・アワーの中で行われ、各クラスを担当するアドバイザー教員は同席している。アドバイザー教員は個別の進路相談に応じることもたびたびあり、学生サービス課（資格・就職支援コーナー）の職員とともに進路指導の要となっている。まだ十分な人数ではないが、ボランティア実習、インターンシップに参加した学生は社会との関わりの中から将来の職業適性を見出そうとしている点は評価できる。また、資格取得の支援は表 10-1-1 に示す資格支援プログラムが開講されている。資格取得者には合格奨励金が授与され、単位認定もされることから就職に結びつく資格取得を目指す学生にとっては有益な指導体制である。しかしながら、学生の就職に対する意識にはかなりの差があり、就職活動を開始する時期や方法も本学で指導する理想的な状態からかけ離れた学生がいることも事実である。学生の自主性を尊重しながらも一般教養対策などの学力補強を含めた早い時期からの動機付けを図ることが重要である。

### (3) 4-4の改善・向上方策（将来計画）

全学的な指導体制は維持しつつも学生個々への動機付けを今後も徹底して行っていく。

進路セミナーは3年生中心のプログラムであるが、1,2年生はアSEMBリ・アワーの中で一般教養対策なども行っており、今後も継続される。それと同時に就職活動中の学生や内定をもらった学生の生の声が学内で伝わるようなプログラムを実施し就職活動への意欲向上に努めたが、引き続きより良いものを提供できるように検討する。

また、学生の主体的な行動を促すためにオープンキャンパスにおける「(学内) ボランティア実習」の単位認定について平成 22(2010)年 5 月の大学運営会議、各学部教授会で審議・承認されている。平成 25(2013)年度は 16 名が単位認定されており、引き続き主体的

な行動を身につけられるよう検討していく。

国の方針により厚生労働大臣認定の若年者就職基礎能力支援事業（YES プログラム）は平成 21(2009)年度で打ち切りとなり、制度は引き続き継続されるため、平成 22(2010)年度からは学長名で「就職基礎能力修得証明書（太成学院大学）」を発行しており、現在も継続している。平成 25(2013)年度は申請者がなかった。

#### **【観点 4 の自己評価】**

大学全体としては定員をみたしているが、定員をみたしていない学部・学科があるため、併設高等学校への高大連携による働きかけや、AO 入試の導入等を検討した。なお、この件については、学長・学部長会議や大学運営会議、各学部教授会等で継続的に検討している。学部・学科ごとに定められているアドミッションポリシーをはじめ入試情報は、オープンキャンパス、高等学校進路指導の先生方対象の年 2 回の入試説明会を介して、受験生、高等学校の先生方等への徹底をはかっている。学生数については、大学全体としては概ね適切な人数であり、特に看護学部は受験者が多い。

学生への学習支援および学生サービスについては、教務課、学生サービス課、図書館、情報センターを介して、積極的に支援活動を行なっている。アドバイザ教員およびアセンブリ・アワーの制度も本学独自の学生支援体制で有効に機能している。学生への厚生面でのサポートも配慮されており、第 2 保健室（学生なんでも相談室）も設置された。就職・進学支援についても、長年の就職指導のノウハウが継承されており、学生サービス課（資格・就職支援センター）を中心に活発に運営されている。以上学生支援面についても評価できる。

#### **【観点 4 の改善・向上方策（将来計画）】**

学生数について、大学全体では概ね定員を満たしているが、一部の学科で満たしていないため、充足するよう学生募集に努める。具体的には、併設高等学校への働きかけ、高大連携等様々な方策を大学運営会議、教授会で継続して審議、検討していく。

学習支援体制についてはなお検討を加えていくが、特に本学独自の少人数教育の中核であるアドバイザ制度およびアセンブリ・アワー制度のさらなる充実を、アドバイザ会議を中心に、大学運営会議、教授会等で継続的に内容の検討を加えていく。

また、増加傾向にある学生の心理的相談に十分な対応ができるように、第 2 保健室（学生なんでも相談室）のさらなる活用を図る。なお、就職・進学について、厳しい社会状況を乗り切るためにも、資格取得の充実、インターンシップの推奨など、可能な限りキャリア教育の充実をはかり、多くの学生が積極的に参加できるよう努める。